

一橋大学名誉教授 焔場準一年譜(一九九六年五月現在)

- |            |   |          |  |
|------------|---|----------|--|
| 一九三二年一〇月六日 | 焔場市郎(大阪商船船員、千葉県長生郡一宮町東浪見出身)と富代(高知県高知市出身(多田姓))の長男として、神戸市林田区で出生 | 一九六〇年 三月 | 一橋大学 大学院法学研究科博士課程修了(法学博士・学位論文題名は「国際私法における先決問題の研究」)                               |
| 一九四五年 三月   | 神戸市立 川池国民学校卒業   | 五月       | 国際法学会および比較法学会に入会(現在に至る)  |
| 一九四八年 三月   | 高知県立 海南中学校卒業  | 六月       | 一橋大学 専任講師(法学部・国際私法担当)  |
| 一九五一年 三月   | 高知県立 追手前高等学校卒業  |          | フルブライト給費生・イエール大学奨学生として、米国イエール大学ロー・スクール大学院に留学(抵触法、証拠法、契約法、記号論理と法、法と精神分析などを重点的に研究) |
| 四月         | 一橋大学 法学部入学(大平善梧教授のもとで国際法を専攻)                                  | 一九六一年一〇月 | イエール大学ロー・スクール大学院修士課程卒業(L.L., M.)   |
| 一九五五年 三月   | 一橋大学 法学部卒業(法学士・卒業論文の題名は「スペインにおける内乱」)                          | 一九六三年 三月 | 国際法協会(本部・ロンドン)入会(現在に至る)  |
| 四月         | 一橋大学 大学院法学研究科修士課程入学(久保岩太郎教授のもとで国際私法を専攻)                       | 六月       | 一橋大学 助教、国際法学会評議員(現在に至る)  |
| 一九五七年 三月   | 一橋大学 大学院法学研究科修士課程修了(法学修士・学位論文題名は「米国における外国法の適用」)               | 一九六四年 四月 | 国際私法学会に入会(現在に至る)   |
| 五月         | 国際私法学会に入会(現在に至る)  |          |  |

一九六六年二月一八日 鳥居淳子(東京大学助手(法学部))

と婚姻(妻の現職・成城大学教授

(法学部・国際私法担当))

国際私法学会理事(現在に至る)

五月 国際私法学会理事(現在に至る)

六月 委員・編集幹事

一九六八年 四月 東京家庭裁判所参与員(現在に至る)、

調停委員(涉外事件専務)

一九七一年二月一五日 男子誕生、聖治(きよはる)と命名

四月 法務省法制審議会幹事

一九七二年 四月 一橋大学 教授

一九七二年 六月 国際法協会日本支部英文年報編集委員会

委員・編集副主幹

一九七四年一〇月 家事調停委員(東京家庭裁判所配属・渉

外事件専務、現在に至る)

一九七九年 四月 一橋大学 評議員(八一年三月まで)

八月 国際法協会ベオグラード会期・船舶衝突

部会に参加、帰途、ウィーン大学にてオ

ーストリアの新国際私法制定関係の資料

収集

一〇月 国際法学会常務理事(庶務主任(八二年

一〇月まで))

一九八〇年 三月 オランダ王国ライデン大学法学研究所に

一七世紀オランダ法抵触論の研究のため

文部省在外研究(長期)研究員として出

九月

張(研究所長R・フェーンストラ教授)引き続き、英国ロンドン大学高等法学研究所にて英国国際私法の現代的展開につき出張研究(八一年二月まで)

国際法学会常務理事(八八年一〇月ま

一九八二年一〇月

で) 法務省法制審議会国際私法部会委員(現

一九八三年 四月

在に至る)

一九八四年 二月

文部省學術審議会専門委員(科学研究費

分科会、八九年一月まで)

一一月

日本學術會議国際関係法学研究連絡委員

会委員(八六年八月まで)

一九八五年 三月

司法試験第二次試験考查委員(国際私法

担当、九四年一二月まで)

一九八八年 八月

国際法協会ヴァルシャヴァ会期・国際養

子部会に参加し意見書を提出

一九八八年一〇月

国際法学会常務理事(会計主任(八八年

一〇月まで))

一九八九年 八月

国際比較法学会モントリオール会期・国

際養子縁組部会(マッギル大学)で報告

ロー・エイシア(事務局・シドニィ(当時))入会(日本支部では家族法部会所

属、現在に至る)

一九八八年一〇月

国際法学会常務理事(九四年一〇月ま

- |           |                                     |             |   |
|-----------|-------------------------------------|-------------|---|
| 一九九二年 五月  | 一橋大学法学部長・大学院法学研究科長<br>(九四年四月まで)     | 一九九五年 七月    | 英国ロンドン大学高等法学研究所にて英<br>国国際私法のその後の発展を追って研究<br>その間、ダブリン(アイルランド)、国際<br>私法関連諸法令改正の動向の研究)、フ<br>ラネケル(オランダ、U・フベルス関係<br>の資料取材)に出張、同年九月帰国 |
| 一九九三年一〇月  | 国際法協会日本支部英文年報編集顧問委<br>員会委員(現在に至る)   | 一九九六年三月三十一日 | 一橋大学 退職   |
| 一九九四年 二月  | 東京家庭裁判所家庭事件研究会評議員<br>(編集委員、現在に至る)   | 四月 一日       | 一橋大学 名誉教授、日本大学教授  |
| 一九九四年 七月  | 家族法国際学会(事務局・オスロ(当<br>時))入会          | 五月 一三日      | 国際私法学会理事長(現在に至る)。   |
| 一九九四年 七月  | 家族法国際学会カーディフ会期・子の監<br>護部会に参加、意見書を提出 |             |   |
| 一九九四年 一〇月 | 国際法学会理事長(現在に至る)                     |             |   |